



あおさがうら  
**青砂ヶ浦教会**  
 ～上五島・長崎巡礼(16)～

新上五島町は「新魚目」「上五島」「有川」「若松」「奈良尾」の五つのエリアに分けられ、青

砂ヶ浦教会は一番北の丘の上にある。新上五島町にある二



明治末期に立てられた青砂ヶ浦教会

九（一）に建てられた。昨年がちょうど献堂百周年に当たり、二〇〇八年から一年かけて大改修された。写真でもわかるように外壁がレンガ造りの教会は新築のように美しく、祭壇の上の天井や側面の窓のステンドグラスが実にカラフルである。

今回一緒に旅をした上五島出身の近藤氏によると、小さいころ、貧しい集落と



月の光にステンドグラスが輝く

ヨローロッパの教会建築の伝統的様式で建てられており、今から百年前に貧しい離島にこのような教会が建てられた時、長い間、迫害に耐えて来た信徒の喜びは我々が想像できないほどのものであったに違いない。

今は五島市となった下五島の福江島と上五島の新上五島町との間に格差はない。しかし五島藩が大村藩に開拓移民の派遣を要請した

今、青砂ヶ浦教会の信徒の多くは漁業によって生計を営む。彼らの先祖たちは約二百年前に長崎・外海地方から海を越えて住み着き、離島のへき地で厳しい自然の中で神を信じ、ひっそりと信仰を守り続けた。そして信仰の自由が認められた今から百年前にこのよう

にタイムスリップしたように思えた。明治の香りがする青砂ヶ浦教会、入り口から「坂の上の雲」の秋山真之が凜（りん）として制服で出て来たがよく似合う、そんな教会である。そしてこの赤レンガの一つ一つは名もなく信仰を守り続けた先人たちの墓標のように思えたのである。

今でこそフェリーが着く有川港から車で二十分余りの小高い丘の上と表現するが、二十九の教会のほとんどが小高い丘や山の上にあるのは、当時海に面した住み良い平地は先住の人たちが住んでおり、大村藩から開拓移民として来た彼らは仕方なくへき地の山を開拓して住み着いたため

その後、総数で三千人にも達したといわれる開拓移民は、福江島ではなくさらに未開の久賀、奈留、若松、中

正面の屋根の十字架の下には「天主堂」とある。一瞬、明治時代

「お詫びと訂正」  
 前回、第二百三十回の最下段五行目で「不運な人々への悲しみ」とあるのは「へへの慈しみ」の誤りでした。  
 （編集部）